

2011/10/18

柏の景気情報（平成23年9月分）

柏 商 工 会 議 所

（本件担当） 柏商工会議所 中小企業相談所 振興課
〒277-0011 千葉県柏市東上町7-18
TEL : 04-7162-3305
FAX : 04-7162-3323
URL : <http://www.kashiwa-cci.or.jp>
E-mail : info@kashiwa-cci.or.jp

柏の景気情報（平成23年9月分）

○ 調査期間 : 平成23年9月26日 ~ 9月29日

○ 調査対象 : 柏市内171事業所及び組合にヒアリング

<産業別回収状況>

調査産業	調査対象数	回答数	回収率
全産業	171	108	63.2%
建設	47	30	63.8%
製造	36	23	63.9%
卸・小売	49	33	75.5%
サービス	39	22	56.4%

○ 調査方法と調査表 : 下記「質問A」をDI値集計し、「質問B」で「業界内のトピック」の記述回答。

質問A

質問事項	回答欄					
	前年同月と比較した 今月の水準			今月の水準と比較した向 こう3ヶ月の先行き見通し		
a.売上高 (出荷高)	1 増加	2 不変	3 減少	1 増加	2 不変	3 減少
b.採算 (経常利益ベース)	1 好転	2 不変	3 悪化	1 好転	2 不変	3 悪化
c.仕入単価	1 下落	2 不変	3 上昇	1 下落	2 不変	3 上昇
d.従業員	1 不足	2 適正	3 過剰	1 不足	2 適正	3 過剰
e.業況	1 好転	2 不変	3 悪化	1 好転	2 不変	3 悪化
f.資金繰り	1 好転	2 不変	3 悪化	1 好転	2 不変	3 悪化

質問B 業界内のトピック(記述式)

DI値 = 1 増加他の回答割合 - 3 減少他の回答割合

※ DI値(景況判断指数)について

DI値は、売上、採算、業況などの項目についての判断状況を表す。0(ゼロ)を基準として、プラスの値で景気の上向きを表す回答の割合が多いことを示し、マイナスの値で景気の下向き傾向を表す回答の割合が多いことを示す。従って、売上高などの実数値の上昇率を示すものではなく、強気・弱気などの景気感の相対的な広がりの意味する。

※ DI値と景気の概況

DI ≥ 50	50 > DI ≥ 25	25 > DI ≥ 0	0 > DI ≥ ▲25	▲25 > DI
特に好調	好調	まあまあ	不振	極めて不振

【平成23年9月の調査結果のポイント】

◀ 業況DIは横ばいで推移 円高に懸念 ▶

○9月の全産業合計のDI値(前年同月比ベース、以下同じ)は、▲36.1(前月水準▲35.5)となり、マイナス幅が▲0.6ポイント拡大した。

業種別では、前月水準と比べて、マイナス幅が縮小した業種は、幅の大きい順に、卸小売業▲45.4(同▲54.0)、建設業▲16.6(同▲23.3)である。マイナス幅が拡大した業種は、幅の大きい順に、製造業▲60.8(同▲37.0)、サービス業▲22.7(同▲20.8)である。特に、製造業はマイナス幅が▲23.8ポイント

【建設業】からは、「地震による影響の屋根の改修、耐震補強工事がまだ続いて受注しているが、新築住宅の反響は冷え込んでいる状況です」(一般土木建築工事業)、「小規模の改修工事はあるが新築の工事は少ない。景気の低迷によるものと思うが業界全体の活力がない。底辺にある企業は努力が報われていない」(電気工事業)、「ホットスポットによる他地域からの住宅購入者が無い状態になっており今後更に影響が出る可能性がある。また、資材、人件費の上昇も出ている」(一般土木建築工事業)などのコメントが寄せられた。

【製造業】からは、「円高による大手製造メーカーの部品調達海外移転は加速度的に早まっている。大手はそれで業績を維持できるが、中小零細製造業はますます受注を失い、景気の動向や震災の影響などはすでに業績において関係性がなくなりつつあるような印象さえ受ける」(その他の金属製品製造業)、「顧客の在庫が減ってきて、多少の注文は戻ってきているが、全体的にはまだまだ良くはなっていない」(電子部品・デバイス製造業)、「1~2ヶ月先は有る程度の見通しがたつが、3ヶ月先は見えて来ないのが現状です」(紙製容器製造業)などのコメントがあった。

【卸小売業】からは、「衣料品の残暑不況に陥ってしまった感が強い。デパートでも夏物を急ぎ店出ししていたようだが、高級先取りの百貨店ですらそのような状態である。去年の方が暑かったが今年はそれ以上に売上はふるわない。メーカーは秋物の生産調整で在庫は少ない」(婦人・子供服小売業)、「気温の低下とともに動きの鈍かった秋冬物衣料品に動きが出てきたが、消費者の購買意欲は高くない。節電にはじまる節約ムードが消費拡大の足かせになっている」(その他の各種商品小売業)、「9月に入り残暑が厳しい中売上は伸び悩み、8月からの各原材料の値上げによる支払い等が増加し、少なからず商品などに転嫁せざるを得ない状況にある」(百貨店・衣料品小売業)などのコメントがあった。

【サービス業】からは、「残暑が続き9月初旬の行事が先送りされたことで平均して客足は順調。飲料水等の好調で売上微増。しかし買い控えが顕著であり必要最低限の買い物で済ます客が多い」(その他の飲食料点小売業)、「相変わらず原発事故による放射能汚染の影響でお客様からの問い合わせが減っています。特に一番の見込み客である30代の若い方から減少しており様子見の状態になっているようです」(不動産管理業)、「9月20日に基準地価が発表され、震災の影響で柏エリアも下落傾向が大きくなったと感じています。今後は経済環境、住居環境にくわえて防災対応力、地盤の優劣が地域の繁栄衰退を決定する重要な要素になってきています」(不動産管理業)などのコメントがあった。

◎円高

各業種から、「原油をはじめ輸入原材料は円高及び景気の後退懸念から下落傾向にあるが、まだ高値圏を脱していない」(ゴムベルト・ゴムホース・工業用ゴム製品製造業)、「円高の推移が懸念される。また、ヨーロッパを中心とした財政危機の動きが懸念される」(ガラス・同製品製造業)、「円高とあるが、原価が下がるよりも原油高等からの輸送費が上昇し利益は小さくなっている」(その他の各種商品小売業)、「円高で輸入食材が安くなり、競争が激しくなると思われます。価格で対応しなければならぬお店の業績は悪くなるのではないのでしょうか」(各種食料品小売業)、「外人客も戻り前月に比べ若干宿泊稼働は上がってきたものの厳しい状況は続く。放射能の影響、円高により柏エリアの主産業の経済状況厳しく、宿泊・宴会共に厳しい状況は続くと思われる」(ホテル)などのコメントが寄せられた。

◎天候の影響

各業種から、「大型台風の影響で雨漏り等の改修工事が増えた」(一般土木建築工事業)、「天候不順により涼感素材、夏物の売上げの収束が早かった。ただプライダル商材である特選衣料雑貨や宝飾品の高額品が前年+4.7%と好調に推移。9月度は27日までの累計で前年+1.4%と好調に推移している」(百貨店)、「台風15号の影響で野菜果物の栽培に大きな影響がありました。秋冬野菜(路次葉物)は大幅減少し、高値傾向です。果実も同様に一部被害があり若干の高値、全体としては入荷は前年並みだが取り扱いは減少傾向です」(食料・飲料卸売業)、「今月は、小、中学校の体育祭が有り、夜の来店又出前有りました。ランチは好調。台風の影響で野菜高騰仕入れ単価上昇。柏産米も値上がり」(食堂・レストラン)などのコメントが寄せられた。

◎先行き不安・先行き不透明

各業種から、「相変わらず悪く見通しに増加の要素がない」(土木工事業)、「原材料価格が高騰している中製品価格への転嫁が困難な状況である。また、円高により先行きの不透明感が見られる」(一般産業用機械・装置製造業)、「設備投資の減少で先行き不透明が続いています」(その他の機械・同部品製造業)、「前月と変わらず、半期が終わろうとして中、下期の予定が不安定で着手に至っておらず。これも円高や震災の影響かも。下期に向けて(種まき)のプレゼンを仕掛けるも、結果出ず」(ソフトウェア業)などのコメントが寄せられた。

	全産業	建設	製造	卸・小売	サービス
4月	▲44.0	▲38.8	▲37.0	▲59.4	▲37.0
5月	▲37.6	▲32.3	▲28.0	▲48.7	▲36.0
6月	▲33.3	▲26.4	▲30.7	▲60.5	±0.0
7月	▲28.1	▲20.6	▲24.0	▲43.2	▲15.7
8月	▲35.5	▲23.3	▲37.0	▲54.0	▲20.8
9月	▲36.1	▲16.6	▲60.8	▲45.4	▲22.7
見通し	▲24.0	▲16.6	▲26.0	▲33.3	▲18.1

見通しは今月の水準と比較した向こう3ヶ月の先行き見通しDI

【平成23年9月の業況についての状況】

○9月の全産業合計のDI値(前年同月比ベース、以下同じ)は、▲36.1(前月水準▲35.5)となり、マイナス幅が▲0.6ポイント拡大した。

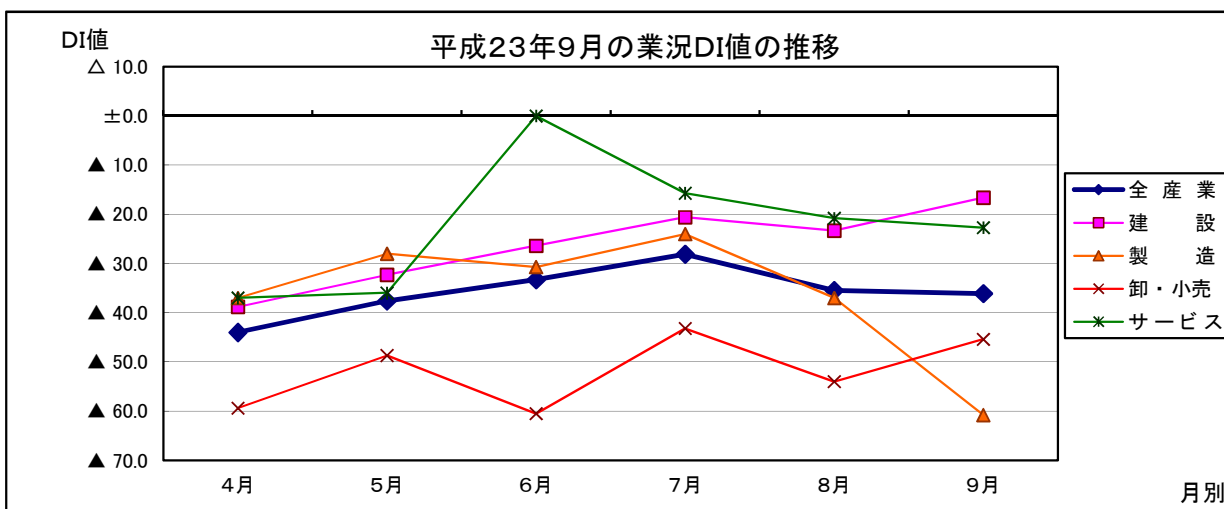
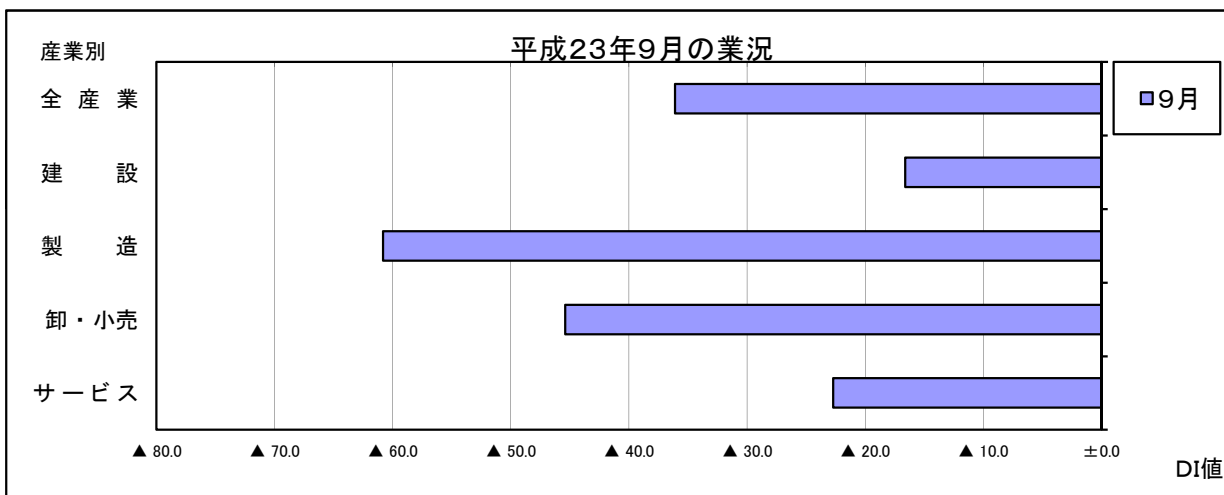
業種別では、前月水準と比べて、マイナス幅が縮小した業種は、幅の大きい順に、卸小売業▲45.4(同▲54.0)、建設業▲16.6(同▲23.3)である。マイナス幅が拡大した業種は、幅の大きい順に、製造業▲60.8(同▲37.0)、サービス業▲22.7(同▲20.8)である。特に、製造業はマイナス幅が▲23.8ポイントと大幅に拡大した。

○向こう3ヶ月(10月から12月)の先行き見通しについては、全産業では、▲24.0(前月水準▲26.2)となり、マイナス幅が2.2ポイント縮小する見通しである。

業種別では、前月水準と比べて、マイナス幅が縮小する見通しの業種は、幅の大きい順に、卸小売業▲33.3(同▲40.5)、製造業▲26.0(同▲29.6)である。マイナス幅が拡大する見通しの業種は、幅の大きい順に、建設業▲16.6(同▲13.3)、サービス業▲18.1(同▲16.6)である。

平成23年9月業況DI値(前年同月比)の推移

	平成23年 4月	5月	6月	7月	8月	9月	先行き見通し 10月~12月(9月~11月)
全産業	▲44.0	▲37.6	▲33.3	▲28.1	▲35.5	▲36.1	▲24.0(▲26.2)
建設	▲38.8	▲32.3	▲26.4	▲20.6	▲23.3	▲16.6	▲16.6(▲13.3)
製造	▲37.0	▲28.0	▲30.7	▲24.0	▲37.0	▲60.8	▲26.0(▲29.6)
卸・小売	▲59.4	▲48.7	▲60.5	▲43.2	▲54.0	▲45.4	▲33.3(▲40.5)
サービス	▲37.0	▲36.0	±0.0	▲15.7	▲20.8	▲22.7	▲18.1(▲16.6)



【平成23年9月の売上についての状況】

○9月の全産業合計のDI値(前年同月比ベース、以下同じ)は、▲23.1(前月水準▲17.7)となり、マイナス幅が▲5.4ポイント拡大した。

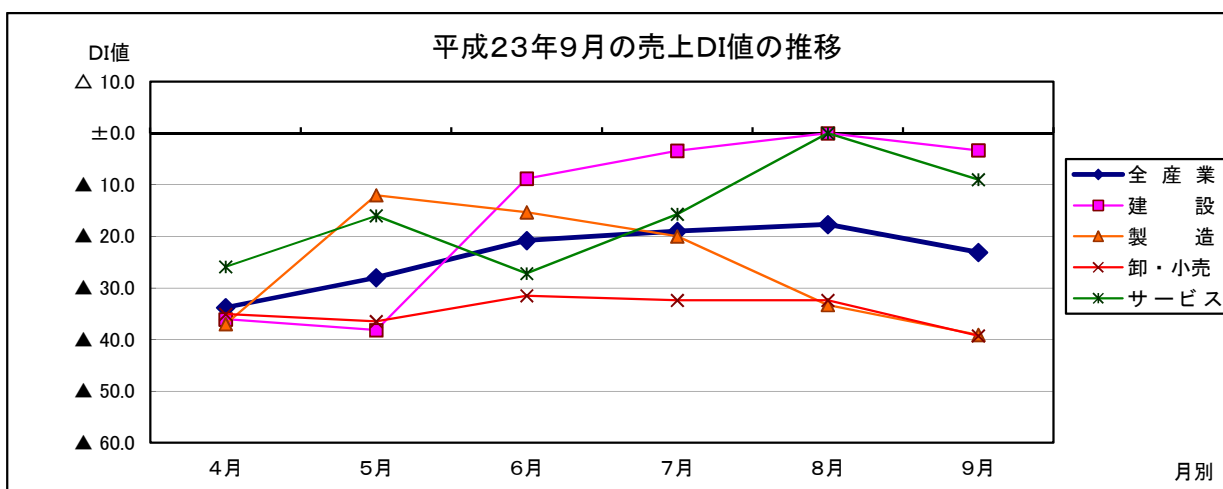
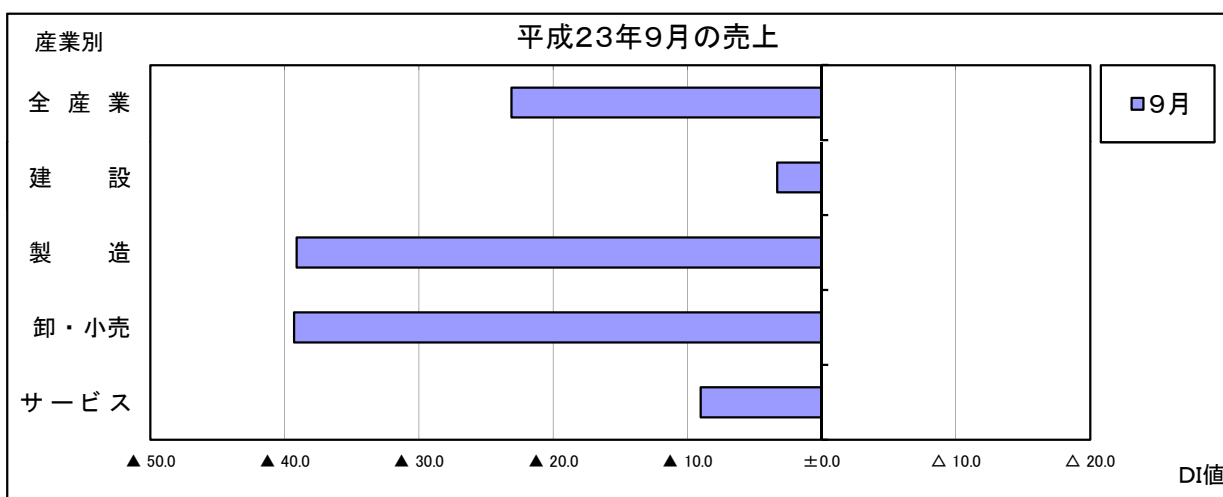
業種別では、前月水準と比べて、マイナス幅が拡大した業種は、幅の大きい順に、サービス業▲9.0(同±0.0)、卸小売業▲39.3(同▲32.4)、製造業▲39.1(同▲33.3)、建設業▲3.3(同±0.0)である。

○向こう3ヶ月(10月から12月)の先行き見通しについては、全産業では、▲6.4(前月水準▲2.5)となり、マイナス幅が▲3.9ポイント拡大する見通しである。

業種別では、前月水準と比べて、マイナス幅が縮小する見通しの業種は、卸小売業▲18.1(同▲21.6)である。プラス幅が縮小する見通しの業種は、幅の大きい順に、サービス業4.5(同8.3)、建設業3.3(同16.6)である。マイナス幅が拡大する見通しの業種は、製造業▲13.0(同▲7.4)である。

平成23年9月の売上DI値(前年同月比)の推移

	平成23年 4月	5月	6月	7月	8月	9月	先行き見通し 10月~12月(9月~11月)
全産業	▲33.8	▲28.0	▲20.8	▲19.0	▲17.7	▲23.1	▲6.4(▲2.5)
建設	▲36.1	▲38.2	▲8.8	▲3.4	±0.0	▲3.3	△3.3(△16.6)
製造	▲37.0	▲12.0	▲15.3	▲20.0	▲33.3	▲39.1	▲13.0(▲7.4)
卸・小売	▲35.1	▲36.5	▲31.5	▲32.4	▲32.4	▲39.3	▲18.1(▲21.6)
サービス	▲25.9	▲16.0	▲27.2	▲15.7	±0.0	▲9.0	△4.5(△8.3)



【平成23年9月の採算についての状況】

○9月の全産業合計のDI値(前年同月比ベース、以下同じ)は、▲30.5(前月水準▲33.0)となり、マイナス幅が2.5ポイント縮小した。

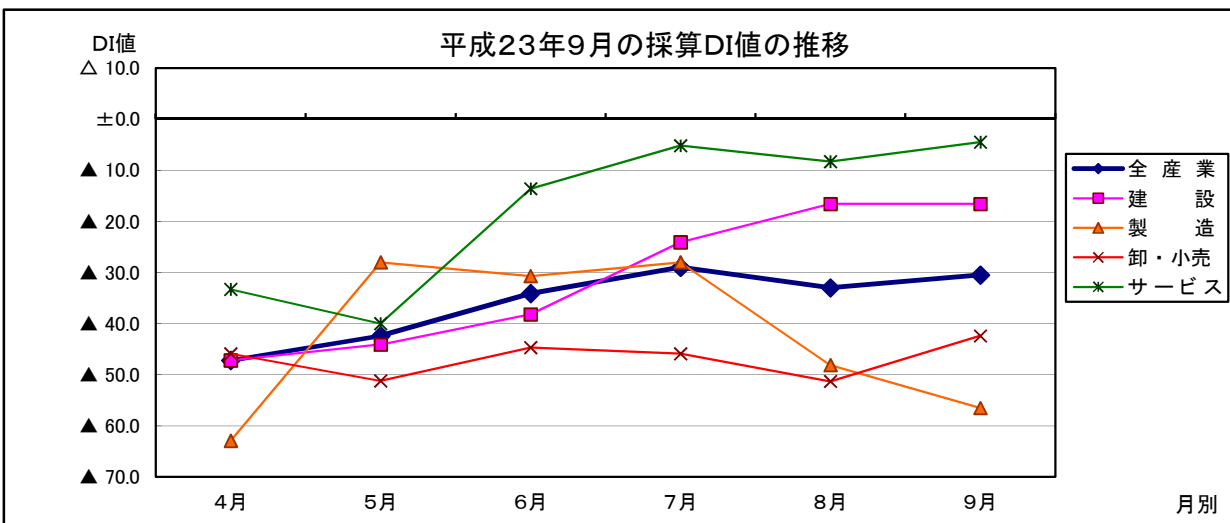
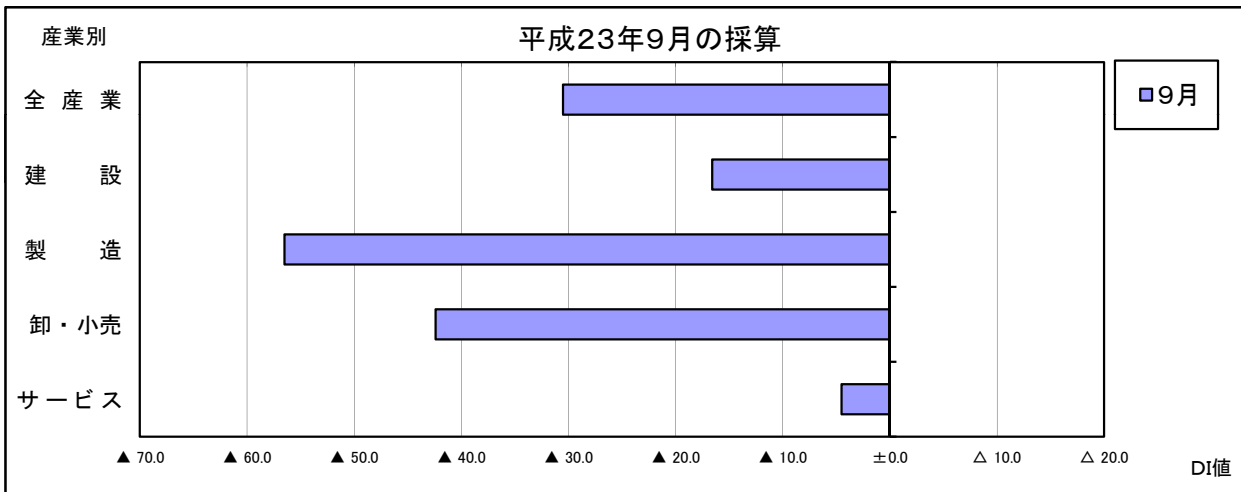
業種別では、前月水準と比べて、マイナス幅が縮小した業種は、幅の大きい順に、卸小売業▲42.4(同▲51.3)、サービス業▲4.5(同▲8.3)である。変らない業種は、建設業▲16.6(同▲16.6)である。マイナス幅が拡大した業種は、製造業▲56.5(同▲48.1)である。

○向こう3ヶ月(10月から12月)の先行き見通しについては、全産業では、▲20.3(前月水準▲17.7)となり、マイナス幅が▲2.6ポイント拡大する見通しである。

業種別では、前月水準と比べて、マイナス幅が縮小する見通しの業種は、卸小売業▲24.2(同▲37.8)である。プラスからマイナスに転じる見通しの業種は、サービス業▲4.5(同4.1)である。マイナス幅が拡大する見通しの業種は、幅の大きい順に、建設業▲20.0(同±0.0)、製造業▲30.4(同▲29.6)である。特に、建設業はマイナス幅が▲20.0ポイントと大幅に拡大する見通しである。

平成23年9月の採算DI値(前年同月比)の推移

	平成23年 4月	5月	6月	7月	8月	9月	先行き見通し 10月~12月(9月~11月)
全産業	▲47.2	▲42.4	▲34.1	▲29.0	▲33.0	▲30.5	▲20.3(▲17.7)
建設	▲47.2	▲44.1	▲38.2	▲24.1	▲16.6	▲16.6	▲20.0(±0.0)
製造	▲62.9	▲28.0	▲30.7	▲28.0	▲48.1	▲56.5	▲30.4(▲29.6)
卸・小売	▲45.9	▲51.2	▲44.7	▲45.9	▲51.3	▲42.4	▲24.2(▲37.8)
サービス	▲33.3	▲40.0	▲13.6	▲5.2	▲8.3	▲4.5	▲4.5(△4.1)



【平成23年8月の仕入単価についての状況】

○9月の全産業合計のDI値(前年同月比ベース、以下同じ)は、▲37.9(前月水準▲36.4)となり、マイナス幅が▲1.5ポイント拡大した。

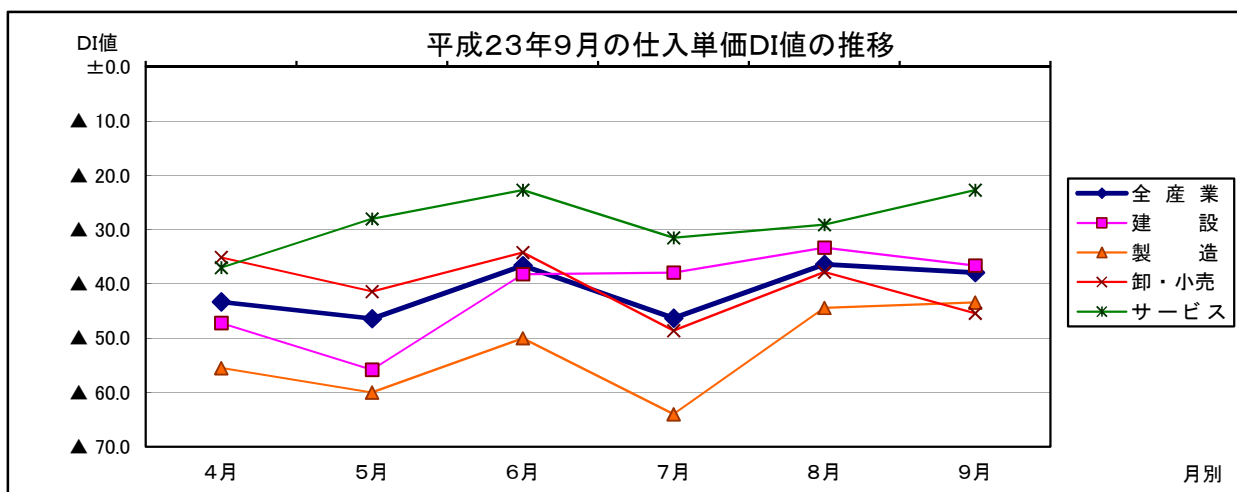
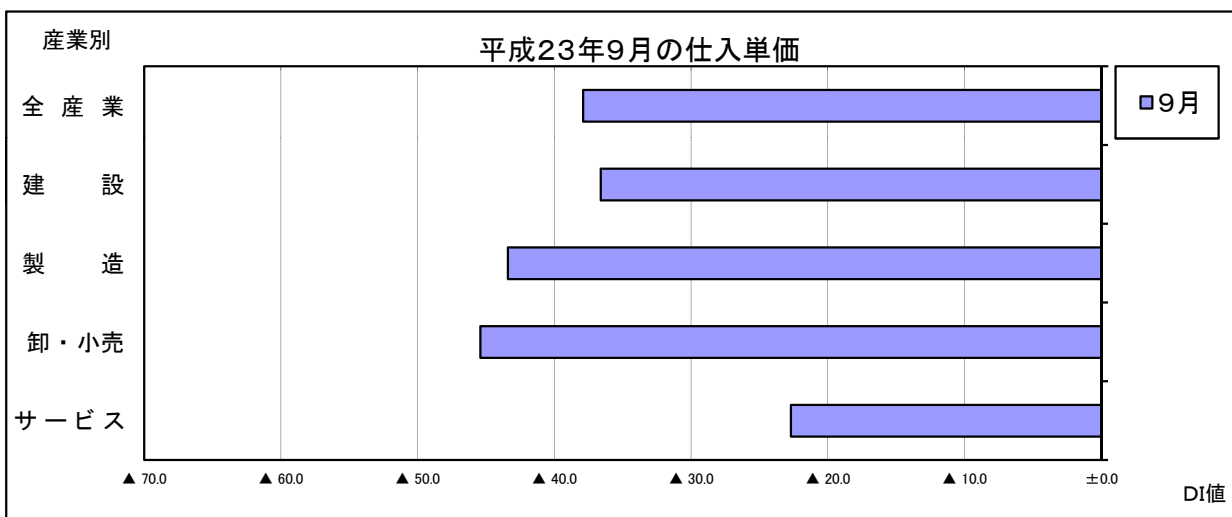
業種別では、前月水準と比べて、マイナス幅が縮小した業種は、幅の大きい順に、サービス業▲22.7(同▲29.1)、製造業▲43.4(同▲44.4)である。マイナス幅が拡大した業種は、幅の大きい順に、卸小売業▲45.4(同▲37.8)、建設業▲36.6(同▲33.3)である。

○向こう3ヶ月(10月から12月)の先行き見通しについては、全産業では、▲33.3(前月水準▲33.0)となり、マイナス幅が▲0.3ポイント拡大する見通しである。

業種別では、前月水準と比べて、マイナス幅が縮小する見通しの業種は、幅の大きい順に、サービス業▲13.6(同▲16.6)、製造業▲34.7(同▲37.0)である。マイナス幅が拡大する見通しの業種は、幅の大きい順に、建設業▲33.3(同▲30.0)、卸小売業▲45.4(同▲43.2)である。

平成23年9月の仕入単価DI値(前年同月比)の推移

	平成23年 4月	5月	6月	7月	8月	9月	先行き見通し 10月~12月(9月~11月)
全産業	▲43.3	▲46.4	▲36.6	▲46.3	▲36.4	▲37.9	▲33.3(▲33.0)
建設	▲47.2	▲55.8	▲38.2	▲37.9	▲33.3	▲36.6	▲33.3(▲30.0)
製造	▲55.5	▲60.0	▲50.0	▲64.0	▲44.4	▲43.4	▲34.7(▲37.0)
卸・小売	▲35.1	▲41.4	▲34.2	▲48.6	▲37.8	▲45.4	▲45.4(▲43.2)
サービス	▲37.0	▲28.0	▲22.7	▲31.5	▲29.1	▲22.7	▲13.6(▲16.6)



【平成23年9月の従業員についての状況】

○ 9月の全産業合計のDI値(前年同月比ベース、以下同じ)は、▲7. 4(前月水準▲6. 7)となり、マイナス幅が▲0. 7ポイント拡大した。

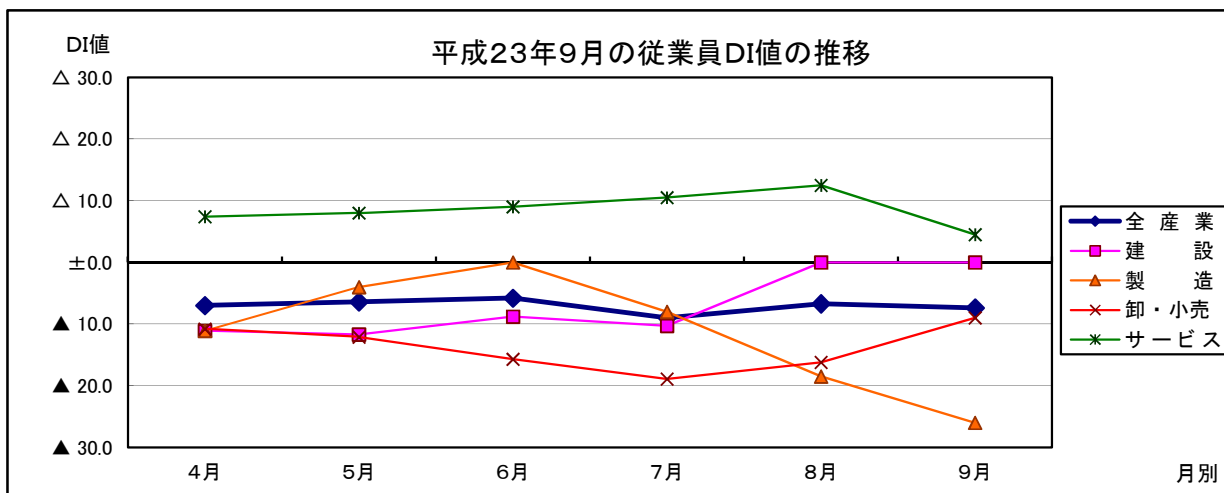
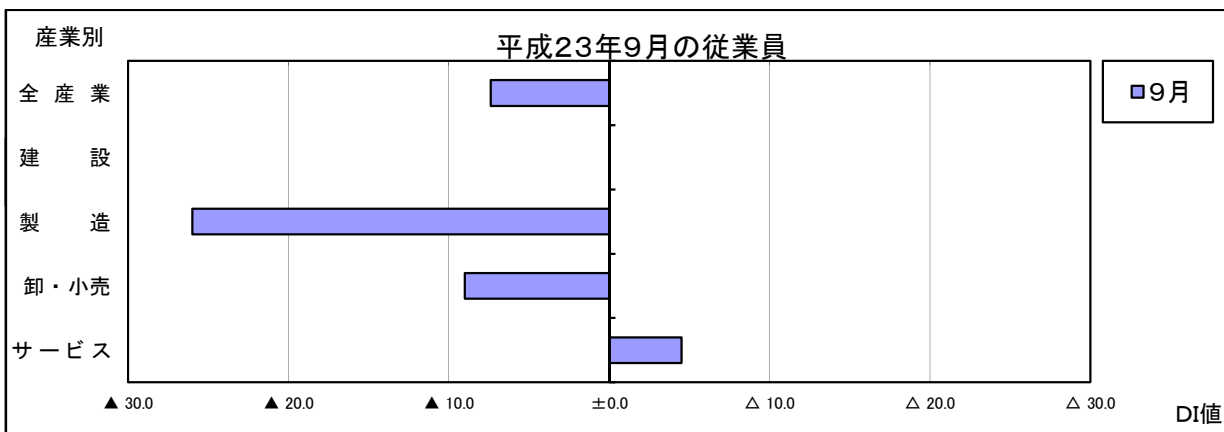
業種別では、前月水準と比べて、マイナス幅が縮小した業種は、卸小売業▲9. 0(同▲16. 2)である。変わらない業種は、建設業±0. 0(同±0. 0)である。プラス幅が縮小した業種は、サービス業4. 5(同12. 5)である。マイナス幅が拡大した業種は、製造業▲26. 0(同▲18. 5)である。

○ 向こう3ヶ月(10月から12月)の先行き見通しについては、全産業では、±0. 0(前月水準▲4. 2)となり、マイナス幅が4. 2ポイント縮小する見通しである。

業種別では、前月水準と比べて、プラス幅が拡大する見通しの業種は、サービス業18. 1(同8. 3)である。マイナス幅が縮小する見通しの業種は、卸小売業±0. 0(同▲13. 5)である。変わらない見通しの業種は、建設業3. 3(同3. 3)である。マイナス幅が拡大する見通しの業種は、製造業▲21. 7(同▲11. 1)である。

平成23年9月の従業員DI値(前年同月比)の推移

	平成23年 4月	5月	6月	7月	8月	9月	先行き見通し 10月~12月(9月~11月)
全産業	▲7.0	▲6.4	▲5.8	▲9.0	▲6.7	▲7.4	±0.0(▲4.2)
建設	▲11.1	▲11.7	▲8.8	▲10.3	±0.0	±0.0	△3.3(△3.3)
製造	▲11.1	▲4.0	±0.0	▲8.0	▲18.5	▲26.0	▲21.7(▲11.1)
卸・小売	▲10.8	▲12.1	▲15.7	▲18.9	▲16.2	▲9.0	±0.0(▲13.5)
サービス	△7.4	△8.0	△9.0	△10.5	△12.5	△4.5	△18.1(△8.3)



【平成23年9月の資金繰りについての状況】

○9月の全産業合計のDI値(前年同月比ベース、以下同じ)は、▲14.8(前月水準▲16.9)となり、マイナス幅が2.1ポイント縮小した。

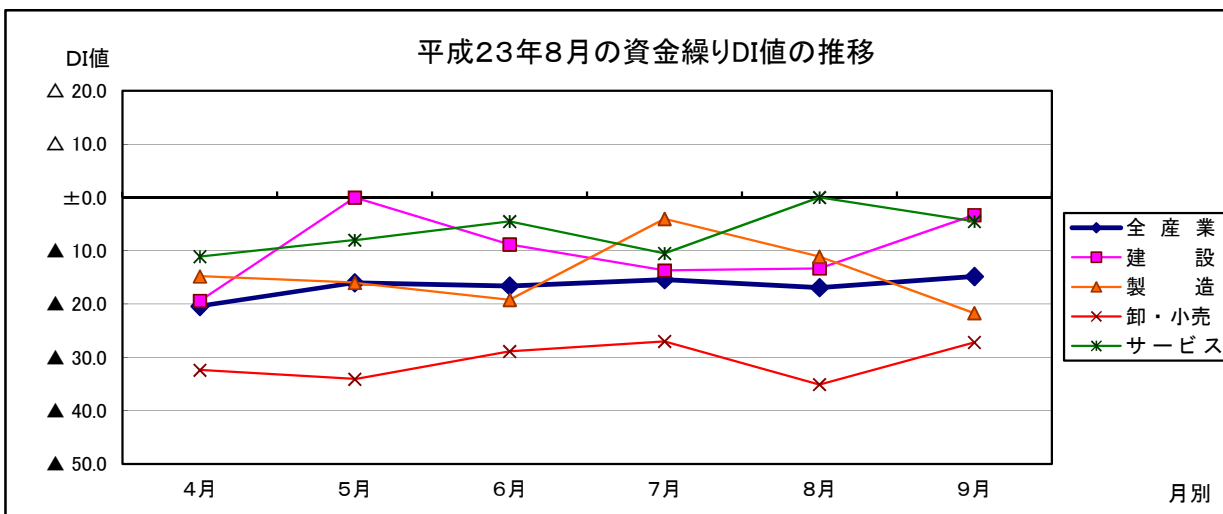
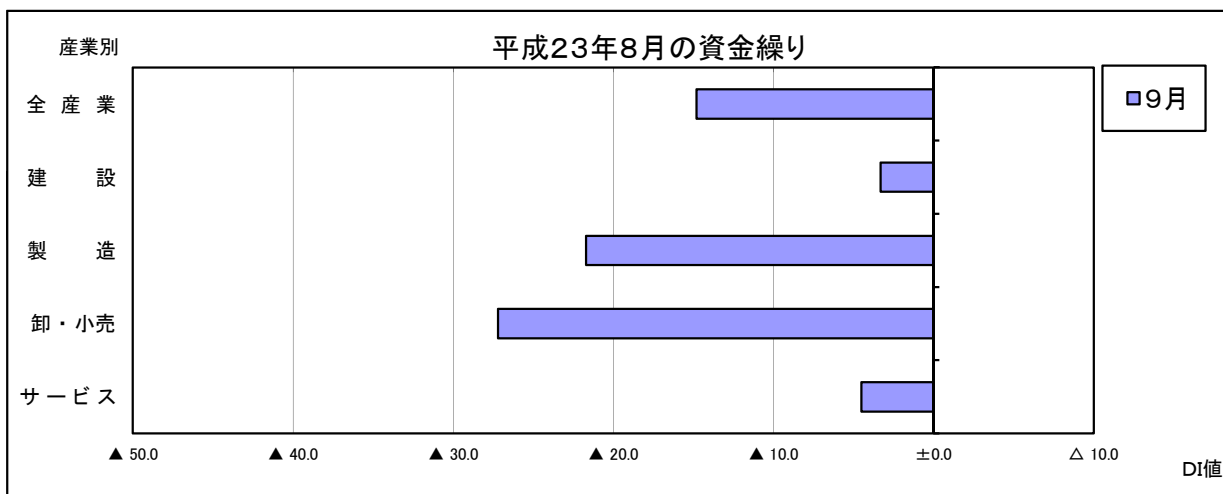
業種別では、前月水準と比べて、マイナス幅が縮小した業種は、幅の大きい順に、建設業▲3.3(同▲13.3)、卸小売業▲27.2(同▲35.1)である。マイナス幅が拡大した業種は、幅の大きい順に、製造業▲21.7(同▲11.1)、サービス業▲4.5(同±0.0)である。

○向こう3ヶ月(10月から12月)の先行き見通しについては、全産業では、▲9.2(前月水準▲16.9)となり、マイナス幅が7.7ポイント縮小する見通しである。

業種別では、前月水準と比べて、マイナス幅が縮小する見通しの業種は、幅の大きい順に、卸小売業▲15.1(同▲27.0)、建設業±0.0(同▲10.0)、製造業▲17.3(同▲25.9)である。マイナス幅が拡大する見通しの業種は、サービス業▲4.5(同±0.0)である。

平成23年9月の資金繰りDI値(前年同月比)の推移

	平成23年 4月	5月	6月	7月	8月	9月	先行き見通し 10月~12月(9月~11月)
全産業	▲20.4	▲16.0	▲16.6	▲15.4	▲16.9	▲14.8	▲9.2(▲16.9)
建設	▲19.4	±0.0	▲8.8	▲13.7	▲13.3	▲3.3	±0.0(▲10.0)
製造	▲14.8	▲16.0	▲19.2	▲4.0	▲11.1	▲21.7	▲17.3(▲25.9)
卸・小売	▲32.4	▲34.1	▲28.9	▲27.0	▲35.1	▲27.2	▲15.1(▲27.0)
サービス	▲11.1	▲8.0	▲4.5	▲10.5	±0.0	▲4.5	▲4.5(±0.0)



【DI値集計表】

	売上高(受注・出荷)		採算		仕入単価		従業員	
	前年比	先行き	前年比	先行き	前年比	先行き	前年比	先行き
全業種	▲ 23.1	▲ 6.4	▲ 30.5	▲ 20.3	▲ 37.9	▲ 33.3	▲ 7.4	±0.0
建設	▲ 3.3	△ 3.3	▲ 16.6	▲ 20.0	▲ 36.6	▲ 33.3	±0.0	△ 3.3
製造	▲ 39.1	▲ 13.0	▲ 56.5	▲ 30.4	▲ 43.4	▲ 34.7	▲ 26.0	▲ 21.7
卸・小売	▲ 39.3	▲ 18.1	▲ 42.4	▲ 24.2	▲ 45.4	▲ 45.4	▲ 9.0	±0.0
サービス	▲ 9.0	△ 4.5	▲ 4.5	▲ 4.5	▲ 22.7	▲ 13.6	△ 4.5	△ 18.1

	業況		資金繰り	
	前年比	先行き	前年比	先行き
全業種	▲ 36.1	▲ 24.0	▲ 14.8	▲ 9.2
建設	▲ 16.6	▲ 16.6	▲ 3.3	±0.0
製造	▲ 60.8	▲ 26.0	▲ 21.7	▲ 17.3
卸・小売	▲ 45.4	▲ 33.3	▲ 27.2	▲ 15.1
サービス	▲ 22.7	▲ 18.1	▲ 4.5	▲ 4.5

【平成23年9月の業種別業界内トピックス】

産業別	概況		業種
建設	地震による影響の屋根の改修、耐震補強工事がまだ続いて受注していますが、新築住宅の反響は冷え込んでいる状況です	震災の影響 耐震工事 新築住宅不振	一般土木建築工事業
	小規模の改修工事はあるが新築の工事は少ない。景気の低迷によるものと思うが業界全体の活力がない。底辺にある企業は努力が報われていない	新築住宅不振 景気低迷	電気工事業
	大型台風の影響で雨漏り等の改修工事が増えた	台風の影響	一般土木建築工事業
	9月に入り多少落ち着いてきたが、従業員の数が少ない為、まだまだ落ち着かない。	従業員不足	塗装工事業
	前年9月に防水の資材の製造元が1社となり、製造が追いつかない状態になった。さらに工場が定期修理にもなったようで供給不足に拍車をかけていた。国内では材料入手はどれも厳しく単価、確保ともに困難な状況に陥っている。また、物件も少なく先行き不安である。震災によるリフォーム工事も落ち着いてきている。当然受注競争は厳しい状況が続いている。天候による中断中止などがあっても工期に合わせるため急な人材確保による余分な人件費などもかかり悪循環になっている	資材不足 材料入手困難 単価上昇 先行き不安 受注競争激化 天候の影響 人件費増加	その他の職別工事業
	ホットスポットによる他地域からの住宅購入者が無い状態になっており今後更に影響が出る可能性がある。また、資材、人件費の上昇も出ている	ホットスポット 住宅建築減少 人件費増加	一般土木建築工事業
	震災の影響による住宅建設の件数減少、着工遅れ。	震災の影響 住宅建築減少	ガス業
	台風15号の影響で多少引き合いが増えている。	台風の影響	塗装工事業
	相変わらず悪く見通しに増加の要素がない	先行き悪化	土木工事業
	最近HPを見た方から注文が入るようになりました。畳の部屋は夏涼しく冬暖かい。年末にかけて大掃除も兼ね畳工事の注文がたくさん入ってくることを祈ります。	ネット受注	内装工事業
製造	原油をはじめ輸入原材料は円高及び景気の後退懸念から下落傾向にあるが、まだ高値圏を脱していない。	円高 景気後退 材料価格下落	ゴムベルト・ゴムホース・工業用ゴム製品製造業
	消費者がお金を使おうという施策がでてこないため、貯蓄が増えるばかりで景気は改善しない。EUやアメリカの経済難が円高のを引き起こし国内の産業も空洞化している	円高 産業の空洞化	その他の機械・同部品製造業
	節電対策は20%減少を記録した。工場屋根の耐熱塗装工事、窓ガラスを二重に変更。すだれ設置による温度低下、クーラーを28～29度に設	節電対策	その他の金属製品製造業
	毎年10月頃から12月までイベントが多くなるので今年も期待したい。震災の影響はまだまだ続いているが、復興に向けての前向きなイベントも少しずつ増えているし、期待するところである	震災の影響 復興イベント	印刷業
	顧客の在庫が減ってきて、多少の注文は戻ってきているが、全体的にはまだまだ良くはなっていない。	受注増加	電子部品・デバイス製造業
	円高による大手製造メーカーの部品調達海外移転は加速度的に早まっている。大手はそれで業績を維持できるが、中小零細製造業はますます受注を失い、景気の動向や震災の影響などはすでに業績において関係性がなくなりつつあるような印象さえ受ける。景気の回復や震災の復興を待っても、元の通りの生産量の維持は今後困難であるだろう。製造に関わる人員を減らさざるを得ない状況になれば、当然失業率は上がり、ますますデフレスパイラルが進行し、もはや日本国内においては一次産業とサービス業、金融・証券業・または商社等以外の産業は消滅してしまうと思われる。設計・試作だけのものづくりで食べていけるのは一握りの人間だけなので、量産品メーカーはすべて国内から姿を消すだろう。なにが生産の海外シフトに歯止めをかける政策はないものだろうか？	円高 海外調達 産業の空洞化 受注減少 震災の影響 生産量維持困難 人員整理 国の政策	その他の金属製品製造業
	原材料価格が高騰している中製品価格への転嫁が困難な状況である。また、円高により先行きの不透明感が見られる	原材料高騰 価格転嫁困難 先行き不透明	一般産業用機械・装置製造業
	円高の推移が懸念される。また、ヨーロッパを中心とした財政危機の動きが懸念される。	円高 欧州の財政悪化	ガラス・同製品製造業
	先行きの仕事の話がとても少ない	先行き悪化	建築用・建設用金属製品製造業

【平成23年9月の業種別業界内トピックス】

	設備投資の減少で先行き不透明が続いています	設備投資減少 先行き不透明	その他の機械・同部品製造業
	1～2ヶ月先は有る程度の見通しがたつが、3ヶ月先は見えて来ないのが現状です。	先行き不透明	紙製容器製造業
	衣料品の残暑不況に陥ってしまった感が強い。デパートでも夏物を急ぎ店出ししていたようだが、高級先取りの百貨店ですらそのような状態である。去年の方が暑かったが今年はそれ以上に売上はふるわない。メーカーは秋物の生産調整で在庫は少ない	夏物衣料品不振 秋物在庫不足	婦人・子供服小売業
	円高とあるが、原価が下がるよりも原油高等からの輸送費が上昇し利益は小さくなっている。節電意識からお客さまも冬の暖房関連でも動きが始める。ゆたんぼポケットカイロ石油ストーブ等	円高 原油価格高騰 輸送費上昇 利益減少 節電商品	その他の各種商品小売業
	ほぼ安定してきているが借入金返済のためキャッシュフローが無くなってきて不安である	先行き不安	書籍・文房具小売業
	天候不順により涼感素材、夏物の売上げの収束が早かった。ただブライダル商材である特選衣料雑貨や宝飾品の高額品が前年+4.7%と好調に推移。9月度は27日までの累計で前年+1.4%と好調に推移している	天候の影響 夏物収束 高額品好調	百貨店
	9月初旬は、昨年の猛暑の反動から衣料品では薄手の秋物商材の動きが好調ではあったが、クールビズ関連商品が先月後半から失速し、衣料品では前年を下回る推移となった。一方、震災後買い控えが顕著であったラグジュアリーなど的高額商材が好調に推移している。また、大型雑貨店も客数を伸ばしたことから、SC全体でも前年を上回る推移となった。中旬からは秋物も順調に動き出したことから、店頭ディスプレイなどで季節感を演出するなど購買意欲を高めていく。	天候の影響 クールビズ失速 秋物好調 高額品好調	その他の各種商品小売業
	気温の低下とともに動きの鈍かった秋冬物衣料品に動きが出てきたが、消費者の購買意欲は高くない。節電にはじまる節約ムードが消費拡大の足かせになっている	秋物好調 購買意欲低迷 節電ムード	その他の各種商品小売業
卸小売	円高で輸入食材が安くなり、競争が激しくなると思われます。価格で対応しなければならぬお店の業績は悪くなるのではないのでしょうか？放射能の影響で安全であると思われる西の商材は高騰し、その反面放射能の影響があるところは風評被害も含め安くなり、表示義務のない安い外食に流れられていくであろう。国内景気の回復も遅れている中混沌とした年になるので9月に入り残暑が厳しい中売上は伸び悩み、8月からの各原材料の値上げによる支払い等が増加し、少なからず商品などに転嫁せざるを得ない状況にあります	円高 競争激化 放射能の影響 商材高騰 風評被害	各種食品小売業
	個人消費が悪い、高齢者が多く子どもが少ないため食生活が変化した、景気が長期的に悪い、店舗が少なくなってきた、店主が高齢化で若い経営者は少ない、など、悪い状態が長く経営者も苦闘している	残暑 売上不振 原材料高騰 価格転嫁	菓子・パン小売業
	バターが品薄状態で、これからの需要に対し危機感	購買意欲低迷 食生活の変化 景気悪化 高齢化	食肉小売業
	8月の売上に対して、多少上がったようです。9月に入り、マスコミからも風評被害が流れてこなくなり、前に少しずつ戻ってきたような気がします	バター品薄	菓子・パン小売業
	台風15号の影響で野菜果物の栽培に大きな影響がありました。秋冬野菜(路次葉物)は大幅減少し、高値傾向です。果実も同様に一部被害があり若干の高値、全体としては入荷は前年並みだが取り扱いは減少傾向です。まだまだ農産物に対する放射能不安と消費者の購買意欲は低迷している。また、今後の復興増税が青果物の流通に影響しないよう努力している。前月と相変わらずです	売上増加 風評被害減少	農畜産物・水産物卸売業
	プロパンガス販売量が減少した分、ガス器具販売に力を注いだ。仕入単価の下落も加わり今月は多少良い。	天候の影響 青果物高値 放射能の影響 購買意欲低迷 増税	食料・飲料卸売業
	高齡化と顧客の整髪の周期が2～3か月に1度となり3割減収	変化なし	建築材料卸売業
	料金の見直しの時期に来ていると思う	販売減少 仕入単価下落	燃料小売業
		高齡化 売上減少	理容業
		価格見直し	理容業

【平成23年9月の業種別業界内トピックス】

サービス	商店会の会員数はピーク時の半分ですが若い経営者の方が先頭に立ち始めており楽しみになってきました。自店の状況は良くなってきております	後継者 業況回復	酒場・ビヤホール
	今月は、小、中学校の体育祭が有り、夜の来店又出前ありました。ランチは好調。台風の影響で野菜高騰仕入れ単価上昇。柏産米も値上がり。	来店増加 体育祭 天候の影響 原材料価格上昇	食堂・レストラン
	宿泊・宴会共に、前年国体の需要があった為、売上高く前年比でも大きく落とす事となる。外人客も戻り前月に比べ若干宿泊稼働は上がってきたものの厳しい状況は続く。放射能の影響、円高により柏エリアの主産業の経済状況厳しく、宿泊・宴会共に厳しい状況は続くと思われる	国体の反動 宿泊宴会減少 外国人客回復 厳しい業況 放射能の影響 円高	ホテル
	前々月、前月の節電実績は15%OFFを達成し、経費面においても削減となった。節電規制が解かれた後も、営業に支障の無い範囲で継続する方針。採用状況に関しては、希望者の採用条件に対する目がシビアになってきており、なかなか難しい状況。	節電 経費削減 従業員採用	ホテル
	残暑が続き9月初旬の行事が先送りされたことで平均して客足は順調。飲料水等の好調で売上微増。しかし買い控えが顕著であり必要最低限の買い物で済ます客が多い。	天候の影響 来店客好調 購買意欲低迷	その他の飲食料点小売業
	上期のマイナス分を下期で補うべく今後の景況感を注視していきたい	上期減少	旅行業
	相変わらず原発事故による放射能汚染の影響でお客様からの問い合わせが減っています。特に一番の見込み客である30代の若い方から減少しており様子見の状態になっているようです	放射能の影響	不動産管理業
	電力制限が解除されたことにより多少は電灯も多く使用でき事業者サイドもお客様サイドも良い方向に向かいそうである。多少落ち着いたときに災害対策は進めたい	電力制限解除 災害対策	不動産賃貸業
	9月20日に基準地価が発表され、震災の影響で柏エリアも下落傾向が大きくなったと感じています。今後は経済環境、住居環境に代わって防災対応力、地盤の優劣が地域の繁栄衰退を決定する重要な要素になってきていると思います	震災の影響 地価下落 防災対策	不動産賃貸・管理業
	前月と変わらず、半期が終わろうとして中、下期の予定が不安定で着手に至っておらず。これも円高や震災の影響かも。下期に向けて(種まき)のプレゼンを仕掛けるも、結果出ず。	先行き不透明 円高 震災の影響	ソフトウェア業

◎円高

- ・ 原油をはじめ輸入原材料は円高及び景気の後退懸念から下落傾向にあるが、まだ高値圏を脱していない。 ゴムベルト・ゴムホース・工業用ゴム製品製造業
- ・ 消費者がお金を使おうという施策がでてこないため、貯蓄が増えるばかりで景気は改善しない。EUやアメリカの経済難が円高のを引き起こし国内の産業も空洞化している その他の機械・同部品製造業
- ・ 円高の推移が懸念される。また、ヨーロッパを中心とした財政危機の動きが懸念される。 ガラス・同製品製造業
- ・ 円高とあるが、原価が下がるよりも原油高等からの輸送費が上昇し利益は小さくなっている。 その他の各種商品小売業
- ・ 円高で輸入食材が安くなり、競争が激しくなると思われます。価格で対応しなければならぬお店の業績は悪くなるのではないのでしょうか？ 各種食料品小売業
- ・ 外人客も戻り前月に比べ若干宿泊稼働は上がってきたものの厳しい状況は続く。放射能の影響、円高により柏エリアの主産業の経済状況厳しく、宿泊・宴会共に厳しい状況は続くと思われる ホテル

◎天候の影響

- ・ 大型台風の影響で雨漏り等の改修工事が増えた 一般土木建築工事業
- ・ 台風15号の影響で多少引き合いが増えている。 塗装工事業
- ・ 天候不順により涼感素材、夏物の売上げの収束が早かった。ただブライダル商材である特選衣料雑貨や宝飾品の高額品が前年+4.7%と好調に推移。9月度は27日までの累計で前年+1.4%と好調に推移している 百貨店
- ・ 台風15号の影響で野菜果物の栽培に大きな影響がありました。秋冬野菜（路次葉物）は大幅減少し、高値傾向です。果実も同様に一部被害があり若干の高値、全体としては入荷は前年並みだが取り扱い減少傾向です。 食料・飲料卸売業
- ・ 今月は、小、中学校の体育祭が有り、夜の来店又出前有りました。ランチは好調。台風の影響で野菜高騰仕入れ単価上昇。柏産米も値上がり。 食堂・レストラン

◎先行き不安・先行き不透明

- ・ 相変わらず悪く見通しに増加の要素がない 土木工事業
- ・ 原材料価格が高騰している中製品価格への転嫁が困難な状況である。また、円高により先行きの不透明感が見られる 一般産業用機械・装置製造業
- ・ 設備投資の減少で先行き不透明が続いています その他の機械・同部品製造業
- ・ 前月と変わらず、半期が終わろうとしてる中、下期の予定が不安定で着手に至っておらず。これも円高や震災の影響かも。下期に向けて(種まき)のプレゼンを仕掛けるも、結果出ず。 ソフトウェア業











平成23年9月のCCI-LOBOとの比較











- 【業況DI】 全産業合計では、「柏の景気」が▲36.1に対し、「CCI-LOBO」が▲39.6で、柏の方がマイナス幅が3.5ポイント小さい。「柏の景気」の方が良い業種は、建設業・卸小売業・サービス業で、建設業・サービス業は10ポイント以上良い。「柏の景気」の方が悪い業種は製造業で、10ポイント以上悪い。
- 【売上DI】 全産業合計では、「柏の景気」が▲23.1に対し、「CCI-LOBO」が▲35.0で、柏の方がマイナス幅が11.9ポイント小さい。「柏の景気」の方が良い業種は、建設業・卸小売業・サービス業で、建設業・卸小売業は10ポイント以上良い。「柏の景気」の方が悪い業種は製造業で、10ポイント以上悪い。
- 【採算DI】 全産業合計では、「柏の景気」が▲30.5に対し、「CCI-LOBO」が▲37.1で、柏のほうマイナス幅が6.6ポイント小さい。「柏の景気」の方が良い業種は、建設業・サービス業で、いずれも10ポイント以上良い。「柏の景気」の方が悪い業種は製造業・卸小売業で、製造業は10ポイント以上悪い。
- 【仕入単価DI】 全産業合計では、「柏の景気」が▲37.9に対し、「CCI-LOBO」が▲30.0で、柏の方がマイナス幅が7.9ポイント大きい。「柏の景気」の方が良い業種は、サービス業。「柏の景気」の方が悪い業種は、建設業・製造業・卸小売業で、卸小売業は10ポイント以上悪い。
- 【従業員DI】 全産業合計では、「柏の景気」が▲7.4に対し、「CCI-LOBO」が▲4.6で、柏の方がマイナス幅が2.8ポイント大きい。「柏の景気」の方が良い業種は、建設業・サービス業で、建設業は10ポイント以上良い。「柏の景気」の方が悪い業種は、製造業・卸小売業で、製造業は10ポイント以上悪い。
- 【資金繰りDI】 全産業合計では、「柏の景気」が▲14.8に対し、「CCI-LOBO」が▲24.4で、柏の方がマイナス幅が9.6ポイント小さい。「柏の景気」の方が良い業種は、建設業・サービス業で、いずれも10ポイント以上良い。「柏の景気」の方が悪い業種は製造業・卸小売業。











平成23年9月の柏の景気天気図











柏の景気情報と全国CCI LOBOとの比較











景気天気図					
	特に好調 DI 50	好調 50>DI 25	まあまあ 25>DI 0	不振 0>DI 25	極めて不振 25>DI

業況DI	全産業	建設	製造	卸小売	サービス
柏の景気	 36.1	 16.6	 60.8	 45.4	 22.7
CCI LOBO	 39.6	 38.2	 33.5	 45.8	 42.8


売上DI	全産業	建設	製造	卸小売	サービス
柏の景気	 23.1	 3.3	 39.1	 39.3	 9.0
CCI LOBO	 35.0	 36.4	 23.0	 44.6	 37.9


採算DI	全産業	建設	製造	卸小売	サービス
柏の景気	 30.5	 16.6	 56.5	 42.4	 4.5
CCI LOBO	 37.1	 40.1	 32.9	 39.4	 40.1

仕入単価DI	全産業	建設	製造	卸小売	サービス
柏の景気	 37.9	 36.6	 43.4	 45.4	 22.7
CCI LOBO	 30.0	 35.1	 40.2	 21.0	 25.7

従業員DI	全産業	建設	製造	卸小売	サービス
柏の景気	 7.4	 ±0.0	 26.0	 9.0	 4.5
CCI LOBO	 4.6	 13.2	 4.3	 ±0.0	 2.5

資金繰りDI	全産業	建設	製造	卸小売	サービス
柏の景気	 14.8	 3.3	 21.7	 27.2	 4.5
CCI LOBO	 24.4	 33.7	 21.4	 24.1	 26.5

 は「柏の景気」の方が、10ポイント以上良い項目

 は「柏の景気」の方が、10ポイント以上悪い項目

CCI - LOBO

商工会議所早期景気観測(9月速報)

調査期間：平成23年9月15日～22日

調査対象：全国の408商工会議所が2861業種組合等にヒアリング調査を実施

全国の業況

業況DIは5カ月ぶりに悪化、震災からの回復基調に一服感

9月の全産業合計の業況DIは、39.6(前月比3.1ポイント)と、5カ月ぶりにマイナス幅が拡大。超円高が、受注・来客数の減少など、幅広い業種に影響を及ぼしており、5月以降続いていた回復基調に一服感がみられる。

先行きについては、先行き見通しDIが33.0(今月比+6.6ポイント)と、震災で落ち込んだ業況の回復傾向が今後も続く見通し。復興需要に加え、自動車の増産や秋の旅行需要、冬に向けた節電関連商品の売上増が見込まれる。しかし、取引先による生産・販売拠点の海外移転や部材の海外調達加速など、超円高の定着を背景とした受注の減少を懸念する声も多い。

産業別にみると、業況DIのマイナス幅は、建設業はマイナス幅が縮小、卸売業はほぼ横ばいだったものの、他の3業種は拡大した。

各業種から寄せられた特徴的なコメントは以下のとおり。

【建設業】「公共施設の耐震化や下水道工事など公共事業の動きが出ており、徐々に仕事が増えている」(一般土木建築工事業)、「県が実施する省エネ・新工設備導入経費の一部を助成する省エネ・グリーン化推進事業費補助金の募集が開始されており、建設業界への波及効果に期待」(一般土木建築工事業)、「住宅エコポイント制度の終了後、建築件数が昨年の水準まで減少。今後も厳しい状況が続く見通し」(建築工事業)

【製造業】「円高の影響で、親会社が海外からの部品調達を増やしており、受注が減少」(鉄鋼業)、「燃料費調整(原燃料価格の変動分を電力料金に反映させる制度)に伴う電力料金の上昇により、毎月60～70万円も経費が増えている」(金属熱処理加工業)、「円高にもかかわらず、原材料の仕入価格が低下しない。受注単価は据え置かれており、利益の確保が困難」(自動車部品製造業)

【卸売業】「営業所が東北にあり、発電機やスコップなど復旧関係資材の売上が堅調」(機械器具・作業工具卸売業)、「資材の調達や取引先への納入に時間を要し、人手不足感が強まっている。また、残業代がかさみ人件費が増えている」(建材卸売業)、「台風の影響で生鮮食品の仕入価格が上昇するも、上昇分を販売価格に転嫁できず、利益が減少」(食料品卸売業)

【小売業】「大雨と残暑の影響で秋物衣料の売上が伸び悩んでいる」(商店街)、「東北3県の新米が敬遠されている」(米穀類小売業)、「冬の節電対策として、電気を使わない暖房器具や防寒衣類の売上が伸びている」(総合スーパー)

【サービス業】「台風の影響で、野菜の仕入価格が上昇し、採算が悪化」(旅館)、「原発事故の影響で、外国人の観光客数が依然として低迷」(旅館)、「夏場の電力使用制限令が終了したため、秋以降、企業の生産活動は震災前の水準と同等かそれ以上の回復が見込まれており、自社の受注増を期待」(運送業)

全国・産業別業況DIの推移

	全産業	建設	製造	卸売	小売	サービス
4月	▲57.7	▲60.3	▲50.2	▲51.9	▲58.1	▲66.4
5月	▲54.4	▲56.1	▲48.6	▲59.1	▲54.8	▲57.2
6月	▲51.4	▲52.7	▲40.3	▲59.8	▲51.0	▲59.9
7月	▲40.0	▲45.8	▲32.9	▲47.3	▲35.1	▲45.9
8月	▲36.5	▲48.4	▲28.1	▲35.4	▲38.9	▲35.5
9月	▲39.6	▲38.2	▲33.5	▲34.7	▲45.8	▲42.8
見通し	▲33.0	▲41.7	▲27.4	▲32.9	▲33.2	▲33.0

「見通し」は当月水準と比較した向こう3ヶ月の先行き見通しDI